

平成20年11月27日(木) 10:00～10:45 指導者 山本 悟

1 題材 ひらがなの曲がりとはらい「つり」

2 目標

- 自分のめあてを見つけ、めあてにあった練習方法を選び、すすんで練習することができる。
- ひらがなの曲がり、はらいの筆使いに気をつけて、ていねいに書くことができる。
- めあてをもとに自己評価や相互評価を行い、自分や友達の伸びを見つけ合うことができる。

3 指導計画(全2時間)

第1時 ひらがなの曲がりとはらいの筆使いを知り、自分のめあてをもって練習する。(本時)

第2時 自分のめあてに沿った練習方法を選び、ていねいに書く。

4 指導上の立場

- 第3学年及び4学年での書写毛筆の指導事項に「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと」があげられている。

本題材は、ひらがなの曲がりとはらいの筆使いを理解し、「つり」の字形を整えて、ていねいに書くことをねらいとしている。指導事項にもあげられているように「点画の筆使い」では、3年生にとってはじめて学習するひらがなの「曲がり」と「はらい」であり、今までに学習した横書「一」や縦書「丨」を発展させた筆使いである。特に筆の穂先の動きが重要となってくるため、文字習得期に一点一画を確実におさえて書くという意識を育てるのにふさわしい単位であると考え。

- 本学級の児童は、書写の学習で上手に書きたいという意識は高い。一学期には「一」「川」「日」を学習し、毎時間、試し書きと手本を自己批正しながら、自分自身のめあてを確認してまとめ書きを行ってきた。しかし、教科全般において集中して学習することを苦手とする児童が多く、書写学習においても筆使いに注意しながら書く意識はあまり高まっていない。また、上手に書きたいという気持ちばかりが先行し、自分のめあてを振り返りながらゆっくりとていねいに書くというよりも、早く何枚も書くことで自分自身の納得できる作品を仕上げる傾向がある。

そこで、試書と手本を自己批正する場を十分にとって課題を見つけ、自分にあつためあてを明確にすることで、意欲的に、また、ていねいに活動することができる考える。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らのめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時では次のように学習過程の工夫や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、手本や教師による基準の説明を参考に試し書きを自己批正し、どこに着目すればよいか話し合うことで「曲がり」と「はらい」にめあてを絞り込み、どの児童にもめあてがもてるようにする。また、めあてを色で示し、「曲がり」では赤、「はらい」では青のシールを手本に貼ったり、腕に色ゴムをつけたりして、自分自身や友達にも視覚的に分かるようにすることで、一人一人のめあてが明確になり、めあてを意識して学習する意欲につながると考えられる。

すすめる学習では、児童一人一人が、めあてにあった練習用紙を選択し、練習することで、主体的に学習を進めることができるようにしたい。その間、教師は机間指導を行い、めあてを確認しながら、姿勢、筆の持ち方、筆使いが不十分な児童に支援することで、基礎・基本を徹底したい。

5 本時案 (第 1 時)

目 標	○ 自分のめあてをもち、めあてにあった練習方法を選び、すすんで練習することができる。 ○ ひらがなの曲がりとはらいの筆使いに気をつけて書くことができる。
学 習 活 動	教 師 の 支 援 評価内容 準備物
1 学習のめあてをもつ。	○ 試書をし、今まで書いた字とどのように違うかについて発表することで、ひらがなの「曲がり」や「はらい」について気づくようにする。 ○ 手本を配り、試し書きと比較し、自分自身の課題をもつようにする。 ・ 児童一人一人が気づいたことを発表する。 ・ 話し合う中で、ひらがなの「曲がり」と「はらい」に着目させ、めあてを絞り込むようにする。
ひらがなの「まがり」と「はらい」の筆使いに気をつけて書こう。	
	○ 自分のめあてを決め、「つり」を書く上での大切なポイントや練習方法を知ること、課題解決するための学習の見通しをもつようにする。 ・ めあての色分けをする。 「まがり」赤、「はらい」青 「まがり」と「はらい」赤・青 ・ めあての決定をする。 手本にめあてシールを貼る。 めあて別に色ゴムを腕にはめる。 ・ 動画コンテンツを利用し、めあてを達成するためのポイントを知る。 【ポイント】 「つ」について ① 「つ」の始筆は軽く入れ、やや

	右上がりに運筆する。 ② 曲がりの部分は、ゆっくりと曲げる。 ③ 終筆は、穂先をそろえるように、すうっとはらう。 「り」について ① 左右の画が、向かい合って、ゆるやかにそろえるように書く。 ② 二画目の始筆は、一画目のはねとつながるように書く。		
2 練習する。	○ 「まがり」「はらい」の練習用紙の説明をする。 ・「まがり」赤について 「つ」の曲がり 骨書き練習用紙「つ」 かご書き練習用紙「つ」 水書板練習 ・「はらい」青について 「つ」のはらいと「り」のはらい 骨書き練習用紙「つ」「り」 かご書き練習用紙「つ」「り」 水書板練習 ○ めあてを変更したい場合は変えてもいいことや練習方法がなかなか選べなかったり、めあてがはっきりしていなかったりする児童には練習が進められるように支援する。 ○ 意欲的に組んでいる児童に対しては、向上が見られる点を称揚し、発展的な課題練習に取り組むようにする。 ○ 姿勢、執筆、筆使いなどに気をつけて取り組めるように声かけをする。	自分のめあてにあった練習用紙で練習している。	練習用紙 まがり用 はらい用 水書板
3 まとめをする。	○ 基準をおさえながら範書をし、まとめ書きにはいるようにする。 ○ 姿勢、筆の持ち方、めあてを確認し、ていねいに書くように助言する。 ○ 試し書きとまとめ書きを比較し、手本にシールを貼ることで自分自身の伸びを実感したり、友達の伸びを見つけたりできるようにする。	自分や友達の試書とまとめ書きを比較して、伸びを発表している。	大型水書板 まとめ書き用紙 シール
4 次時の学習を知る。	○ 次時の学習について知る。		